

生徒数増で競争活発化

教育の質を高めるためには、クラスの生徒の数を減らせばよい。一人の先生が注意を払うことのできる生徒の数は限られている。1クラスの生徒の数を減らせば、それだけ先生の目も行き届くし、教育の質も高まるだろう。

多くの人は、このように考えているのではないだろうか。私もそうだった。ただ、先日ある著名な学校経営者の方の話を聞いて驚いた。その学校は私立であるが、世の中に先行して少人数クラス化を進めてきたが、学力は思ったように上がらなかった。それと

伊藤 元重 機構大教授 東京大 研究員 総合事務局長

ろか、1クラスの生徒の人数を増やしたり、生徒の学力がむしろ向上するという成果さえ見られるという。

これはどのようなことなのだろうか。この学校経営者の答えは、生徒数が多い方が、競争が活発になる。それが生徒を刺激するよう

ロールモデルの刺激

になるのではないかと、こういうものである。競争ということをおまわり狭く捉えてはいけませんが、この経営者の言うことには重要な真理が含まれている。

ノーベル経済学者を受賞したシカゴ大学のジョージ・スティークラー教授が、どこかで面白いことを書いていた。自分はシカゴ大学

の大学院で本当に恵まれた教育を受けたが、それはどちらかと言えば先生からというよりは、優れた多くの同級生からだという。同級生と自分を比較し、同級生がロールモデルにもなるという。講義が上手な先生も大切だが、授業の中身であれば本で復習することもで

きる。それに比べれば同級生からの刺激の方が遥かに重要であるということだろう。私自身を振り返っても同感だ。小中学校のころを思い出してほしい。こういっては申し訳ないが、先生のごとで覚えていることとは、担任でお世話になったようなく一部は先生だけだ。し

かし、同級生のごとはよく覚えていた。鉄棒がやたらうまくて車輪がで

きる同級生がいた。私もそれに刺激されて鉄棒で車輪ができるようになったときは、本当に嬉しかった。フランスバンドで他校にトランペットがうまい生徒がいた。それに憧れて、練習に励んだことを覚えていた。高校の時には、数学でどう逆立ちしてもかなわなような同級生がいた。彼に刺激されたおかげで、自分の数学の能力もすいぶん向上したと思う。

「上から」の教育観疑え

人間は、つねに自分の周りに、参考にする、あるいは目標にする人を探すものだ。英語ではそれを

ロールモデルという。いろいろな生徒が雑多にあふれている教室は、そうしたロールモデルの宝庫なのである。刺激であふれている。こう言っているが、先生がどんなに頑張っても、同級生にはかなわないのだ。誤解してほしくないが、1クラスの学生数を単純に増やせばよい、と言っているわけではない。大切なことは、教室が同級生によって刺激にあふれる場にする。この重要性なのだ。優れた教師が少人数で目の届く「優れた」環境で質の高い教育をするということだが、教育において最も重要なことのように考えられがちだ。しかし、そうした上から目線の教育観を、一度疑ってみることも必要なきがする。

\*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。